

7. PMD患者移動用機械器具の検討

国立療養所西多賀病院

加藤正江 スタッフ一同

〔はじめに〕

筋ジストロフィー病棟における患者の移動には抱きかかえ作業等が原因と思われる種々の問題が山積されている。筋力が低下していくこの病気にとっては、看護者の手をかりなければ、ベッドの昇降も出来ないのである。ベッドと車椅子の高さが違うために介助を要するのである。これはすべて看護者による抱きかかえ作業によって行われる。またこの様なベッド昇降介助の大半は朝夕行なわれ3～4名のスタッフで30名以上の患者を介助しなければならない。

これらの作業は、患者に不安感や苦痛を与えることも多い。又看護者の腰痛の原因などにもなり患者、看護者両面にとって改善されなければならない問題であるがしかし、患者移動用の適当な機械器具の十分な検討がなされていないのが現状である。そこで我々は資料や他施設の訪問や実際に開発されたものを使用しこれらの利点欠点を検討し、患者にも安楽で看護者にも容易に操作出来、そして経済的にも安価な機械器具の作製にとりくんでみた。

〔経過〕

当病棟内で何度かの検討会を行ない、資料により他施設での開発されたものや、現在使用されているものなど把握してみたが良好な結果は記載されていなかった。しかし未発表な器具が過去に開発されているのではないか、あるいは現在使用されているものであってもそれがその施設だけのものとしてどどまっているものがあるのではないかと考えた。

〔方法〕

以上の様な理由により、もっと「生の意見」を把握したいと思いアンケートを作制した。アンケートの内容は次の通りである。

- 1) 移動用の機械器具があるか。
- 2) 現在その機械器具を使用しているか。
- 3) 現在使用していない場合の問題点はなにか。
- 4) 今後この種の機械器具の開発を考えているか。

アンケート対象施設 23施設 である。

現在は、このアンケートを集約中である。これと同時に我々が考えたものも具体的に製図を試みた。車椅子の幅は30～40cmであった。又、車椅子とベッドの高さの差は20～25cmである。これを考慮し考え出したものが④の図で材料は木である。また車椅子の背部の部分をつっかりとらずせる様なものを考えてみた。

〔結 果〕

実際に使用してみたが①図のものは、病気の進行にともないどうしても使用期間が短くなってしまふ。又、車椅子の背部を全部とりのぞくものは経済的に高価でとても我々の考えているものとは程遠いものとなってしまった。

いままで患者のためにと思つて研究をすすめてきたが、なかなか思う様に開発がすすまず、経済的な面での負担が大きいなどして、考案するごとに問題が提起され行き止まりを感じている。しかしこれは、解決を要する問題であるため今後職種の違う人々やスタッフの協力をえて研究を継続していきたいと思つている。

⑧ PMDに適した Mobile Radial Arm Support の製作

国立療養所箱根病院

村 上 慶 郎 古 内 文 夫

私共は既に、種々の Feeder あるいは mobile arm support を筋ジストロフィー症の患者に使用して好結果を得ております。

今回は、A、W、GuiHord らの考案した Radial mobile arm support と称する Feeder を成人筋ジストロフィー症患者に使用出来るように、二、三の改良を加えたものである。

この Feeder の構造は、従来より使用されている Ball bearing feeder とは異なり、Proximal と distal の arm に分れておらず、Bracket assembly に sliding unit が付き、これを 1 本の鋼鉄製の四角な柱型の arm が slide して長さの調節をするようになっている。また、この arm の先端に水平方向の回転 unit があり、この中にバネがしこまれており、残存筋力により強度が調節できるようになっている。さらにもう一つの上下の角度の調節できるバネ付の回転 unit があり、この二つの unit の結合部分で上下左右の微細調節ができるようになっている。Irough は従来のもと同様ホールを有するものである。Guilborol のオリジナルの Feeder は、このバネが強く、筋ジストロフィー症には使用が困難であるため、このバネの強度を約 1/2 のものに取り変えた。

この Feeder の特徴は、従来 Feeder に比し車椅子の側方より外側に上肢がゆきすぎない。補助ゴムバンドが従来 Feeder には用いられていたが、その代わりにバネ付 unit を有する。調節がより微細にできる（特に x、y 方向に）。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

〔はじめに〕

筋ジストロフィー病棟における患者の移動には抱きかかえ作業等が原因と思われる種々の問題が山積されている。筋力が低下していくこの病気にとっては、看護者の手をかりなければ、ベッドの昇降も出来ないのである。ベッドと車椅子の高さが違うために介助を要するのである。これはすべて看護者による抱きかかえ作業によって行われる。またこの様なベッド昇降介助の大半は朝夕行なわれ3~4名のスタッフで30名以上の患者を介助しなければならない。

これらの作業は、患者に不安感や苦痛を与えることも多い。又看護者の腰痛の原因などにもなり患者、看護者両面にとって改善されなければならない問題であるがしかし、患者移動用の適当な機械器具の十分な検討がなされていないのが現状である。そこで我々は資料や他施設の訪問や実際に開発されたものを使用しこれらの利点欠点を検討し、患者にも安楽で看護者にも容易に操作出来、そして経済的にも安価な機械器具の作製にとりくんでみた。